

若手社員の“読解力の低下”

—自分で考える自律社員の育成—

ある調査で使われた以下の問題をお考え下さい。

「Alexは、男性にも女性にも使われる名前で、女性の名Alexandraの愛称であるが、男性の名Alexanderの愛称でもある」

この文脈において、以下の空欄に当てはまるものを選択して記入しなさい

『Alexandraの愛称は（ ）である』

①Alex ②Alexander ③男性 ④女性

答えは、もちろん「①Alex」です。

しかし、この調査結果では、中学生の正答率は38%、高校生では65%となっています。高校生でも3人に1人は、この文の意味を理解できないのです。

この結果は、以前から問題視されている「若者の読解力の低下」に、さらに拍車がかかっていることを現わしています。この原因について、教育の専門家は「読書離れにより、語彙力が低下しているから」だと言っています。

読書離れは、大学生にも及んでいます。大学生協の調査によると、教科書を除けば、約50%の大学生が読書習慣なしだそうです。中には、コミックや雑誌も読書に入ると考えて回答した例もあり、実態は50%を上回ると考えられます。

そして、語彙力、読解力が低いまま企業に入ります。するとどうなるか？

1. 簡単な連絡文書でも、正確に理解できずミスをする。そして「私は～だと思っていました」と、まるでわかりにくい文書が悪いと言わんばかりの反応をする
2. 読解力の低さは文書に対してだけでなく、会話においても相手の言っていることを正確に理解できない。例えば、営業担当者がお客様の要望を把握できず、対応がずれる
3. 文書作成が苦手で、時間がかかり過ぎる。しかも完成度が低い
4. 自分の考えを的確に伝えられない。周囲から「要するに何を言いたいのか？」と突っ込まれる。
5. 本を読む習慣がないので、ネットで調べた表面的な知識を鵜呑みにする。結局、本質的な理解はできていないため、応用が効かない。

このような現象からわかるように、読解力不足は業務に支障をきたすこととなります。

さらに、読解力が高いということは、豊富な語彙で物事を幅広く、深く考えることです。なぜなら、人間は“言葉で考える”からです。つまり、読解力とは考える力でもあります。

読解力不足は、考える力不足を生んでいるのです。

そして、考える力とは、主体的に問題解決できる戦力となるための必須条件です。

弊社の「若手社員の早期戦力化研修」は、読解力・考える力も含めた昨今の若手社員の特徴に応じたテーマ別研修です。この研修は、貴社のご要望に合わせてオリジナルなカリキュラムで実施できます。また、新人研修のフォローとしても活用していただけます。

興味・関心のある方は下記からお問い合わせ下さい。

> お問い合わせはこちら

